

(仮訳：脱原発をめざす首長会議)

NFLA メディアリリース、2023年8月21日

サフォーク州のために、脱原発自治体はセントリカ社に「サイズウェルCにNOと言う」よう求める

脱原子力自治体 (NFLA) 運営委員会と NFLA イングリッシュ・フォーラムの議長は、British Gas を所有するセントリカ社の最高経営責任者 (CEO) 宛に書簡を送り、「私たちの地球、サフォークの人々、動植物、苦境に立たされている電力顧客の財布、そして自社の収益のために」サイズウェルCにNONと言うよう求めた。

タイムズ紙は7月、クリス・オシェイ最高経営責任者 (CEO) が同プロジェクトへの出資を検討していると報じたが、オニール議員とブラックバーン議員は書簡の中で、「セントリカにとって財務、ESG、風評に関わる明確なリスク」を伴う投資の落とし穴を指摘している。

現在フランス国営のEDF エナジー社は、サマセット州のヒンクリーポイントCに同様の発電所を建設中だが、その歴史は、プロジェクトが予定より大幅に遅れ、予算も大幅に超過するなど、決して幸福なものではなかった。さらに、サイズウェルCはヒンクリーポイントCと同じEPR炉を使用する予定だが、この原子炉設計は安全性と信頼性に問題がある。中国の原子炉は事故に巻き込まれ、現在再び停止中 (タイシャン1号炉) であり、フィンランドの2号炉は、相次ぐ機器故障の後、事業者が修理の実施を余儀なくされた後にオンラインになったばかりである (オルキルオト3号炉)。

サイズウェルCはまた、ユニークな課題を抱える場所でもある。サフォーク・ヘリテージ・コーストに位置し、高潮と海岸浸食の脅威の高まりに直面しており、気候変動モデルでは浸水して孤立することが示唆されている。近隣には科学的に興味深い場所がいくつかあり、郡は水不足が深刻化しており、工場だけでなく地元の人々のニーズを満たす淡水が不足する恐れがある。

参議院議員は、大規模な年金基金を運用する投資家候補の何人かが、サイズウェルCの放射能汚染された水に「資金を投じるつもりはない」と明言していることを指摘する。The People's Pension、Nest、BT、BBC、Tesco、Pearsonの年金運用担当者は、Stop Sizewell Cの運動家が見た書簡の中で、サイズウェルCを支援しないことを表明している：「我々はHS2とサイズウェルCの大ファンではない」。

オニール議員は、これが賢明なアドバイスだと考えている：「現在予想されている327億ポンドというヒンクリーポイントCの予算は、決算時の最初の見積もりの2倍に急速に近づいており、サイズウェルCがこれ以上早く、これ以上安く納入されると信じる理由はない。

NFLA 英国フォーラムの議長であるデービッド・ブラックバーン評議員は、この書簡の共同署名人である。彼は、このプロジェクトに反対する人々にも、セントリカ社に投資しないよう連絡するよう求めている：「セントリカ社にとっては、利用可能な資金をすべて、現在すでにある実績のある再生可能技術に振り向ける方がはるかに賢明である。これらの技術は、この途方もない原発事業にこれ以上投資するよりも、はるかに迅速かつ安価に電力と熱を生み出し、より直接的な財務的リターンをもたらすだろう。

「NFLAは、ストップ・サイズウェルCが開始したキャンペーンに賛同し、サイズウェルCに投資しないようオシェア氏に直接メールを送るよう支援者に呼びかける。

「この直接行動は、<https://action.stopsizewellc.org/centrica> のサイトにアクセスし、数回クリックするだけで行うことができます。これに署名し、ご家族やご友人と共有してください。

「サフォークのために、サイズウェルCは必要ない」。

このニュースリリースはNFLAのウェブサイトでもご覧いただけます。

<https://www.nuclearpolicy.info/news/for-the-sake-of-suffolk-nuclear-free-local-authorities-urge-centrica-to-say-non-to-sizeewell-c/>

## 編集者へのメモ

オシェイ氏への書簡は以下の通り：

セントリカ CEO クリス・オシェイ 2023年8月21日 月曜日（セントリカ インベスター・リレーションズ宛）

親愛なるオシェイ様、

サイズウェルCにNONと言ってください！

私たちは、NFLAの議長およびNFLA イングリッシュ・フォーラムの議長として、物議を醸しているサフォーク州のサイズウェルC 原子力発電所プロジェクトにセントリカが出資しないよう、貴殿にお願い申し上げます。

2023年7月22日付のタイムズ紙で、このような投資が検討されていると報じられました：

オシェイはまた、EDFのサイズウェルC原子力発電所プロジェクトに投資するアイデアも持ち出しているが、（インベステックの）マーティン・ヤングは、EDFは「予算と納期を守る能力という点で、必ずしも栄光を手にしていない」と警告している。

これは控えめに言っている。ヤングはここで、EDF エナジー社がサマセット州に建設中のサイズウェルCの前身であるヒンクリーポイントCについて言及している。

ヒンクリーポイントCの完成は遅れ、予算も大幅に超過する予定だ。

英国における大型原子力発電所の建設は、納期が遅れ、予算が大幅に超過するプロジェクトばかりであるため、サイズウェルCがこれ以上早く、これ以上安く納品されると信じる理由はない。

ヒンクリーポイントCと同様、サイズウェルCも、安全性と信頼性で実績の乏しいEDF設計の欧州/進化型発電炉に依存することになる。

中国の泰山1号炉は、2021年夏に放射性ガスを放出する事故に見舞われ、1年以上停止した。2022年8月に再稼働した後、今年1月から再び原子炉が停止した。

フィンランドのオルキオ3号機は、17年後の2022年に再稼働したが、その後、部品の故障が相次ぎ、1年以上にわたって発電を停止した。何度も修理を繰り返し、今年4月ようやく再稼働したが、水力発電所から得られる電力に比べ発電コストが見合わず、わずか1カ月で出力が低下した。

サイズウェルCの敷地は、サフォークの遺産である海岸に位置し、科学的に重要な生息地、特に鳥類の生息地が目前にあるため、傑出した自然の美しさを誇る地域にある。サフォークの海岸は高

潮と海岸浸食の影響を受け、気候変動によりその頻度と激しさは時間の経過とともに増すと予想され、モデルによれば、サイズウェルCの敷地は今後数十年のうちに浸水し、孤立する。

サイズウェルCはまた、水不足に悩む郡に位置しており、発電所による飲料水供給への要求が、地元住民の飲料水供給を危うくすることも懸念されている。また、サイズウェルCは水冷式であるため、大量の海水を吸い込み、海洋環境に多大な悪影響を及ぼすだろう。

最後に、ウクライナで見られたように、原子力発電所は敵対勢力にとって巨大な潜在的標的でもある。ロシアは以前、核兵器による津波で英国の海岸線を押し流すと脅したことがある。

まとめると、サイズウェルCへの投資は、セントリカにとって財務、ESG、風評の面で明確なリスクを伴うということだ。

他の多くの年金投資家は、Stop Sizewell Cのキャンペーンが見た書簡の中で、おそらくこの書簡のような書簡への返信であろうが、放射能汚染された水に金融面で足を突っ込まない理由をすでに示している：

ピープルズ・ペンション - “原子力インフラ・プロジェクトへの直接投資は、ピープルズ・ペンションの投資戦略の一部ではないので、サイズウェルCに直接投資することはない”

NEST - “ネストは原子力インフラに直接投資しておらず、当面その計画もない。”

BT - “サイズウェルCへの投資やエクスポージャーはなく、今後もその予定はないことをお知らせします。”

BBC - “(年金) スキームは、原子力関連の投資を行う可能性を排除していないが、現在のところ、サイズウェルCへの直接的な株式投資を行う計画はない。”

テスコ - “当制度は(サイズウェルCの親会社である) EDF に投資しておらず、同社に投資する当面の計画もないことを確認できる”

ピアソン - “本制度の受託者は、サイズウェル原子力発電所に直接投資することは考えておらず、今後もその予定はないことをお伝えします。”

さらに、メディアからも：

ナットウエスト - 2023年1月31日付デイリー・メール

[https://www.thisismoney.co.uk/money/markets/article\\_11697759/Two-UK-pension-funds-snob-Sizewell-C-nuclear-plant-plan.html](https://www.thisismoney.co.uk/money/markets/article_11697759/Two-UK-pension-funds-snob-Sizewell-C-nuclear-plant-plan.html) で報道されたとおり。

リーガル・アンド・ジェネラル - ナイジェル・ウィルソンは、2022年11月BBCラジオ4トゥデイの番組で、「我々はHS2とサイズウェルCの大ファンではない」と述べた。

それでは、ご覧いただき。年金投資市場のリーダーたちからの賢明なアドバイスだ。

サイズウェルCは、気候変動による緊急事態や生活費危機の解決策にはならない。気温の上昇を食い止めるには遅すぎるし、電力消費者の請求書には原子力発電の賦課金が上乘せされるため、苦しい家計をさらに苦しめることになる。

セントリカにとって、利用可能な資金をすべて、現在すでにある実績のある再生可能技術に投資する方がはるかに賢明である。これらの技術は、この途方もない原発へのさらなる投資よりも、はるかに迅速かつ安価に電力と熱を生み出し、より直接的な経済的リターンをもたらしてくれるだろう。

従って、私たちの地球、サフォークの人々、動植物、厳しい状況に置かれている貴社の電力顧客の財布、そして貴社自身の利益のために、EDF エナジー社にNONと言い、サイズウェルCに投資しないことを確認するため、私たちに返事を書くようお願いします。

敬具

ローレンス・オニール評議員

英国・アイルランド非核自治体委員長

デービッド・ブラックバーン評議員

NFLA 英国フォーラム議長